

Fusyo Collaboration letter

6月6日 No.13 文責 廣田 秀俊



35人の納得解をつくる 一人の意見を大切にす

“4の3の願いに添った学習材について35人の納得解をつくろう！”この日のめあてが黒板に記されました。三つのスペースに分かれた黒板には、それぞれのネームプレートが張り出されています。自分がやりたいことは何かを一人一人が真剣に考えていました。



この日の授業で学習材を決めていくために、4の3の願いについて、改めて見つめ直していきました。その三つは以下のように事柄になります。

- ① 相手に新発見がある:よさや魅力
- ② 4の3のよさをいかせる:元気さ・あかるさ・あたたかさ
- ③ 力を磨ける:協力する力・有言実行・伝える力



相手を説得できるようにメモを取りながら、言葉に意味を込めて自分が決めた事柄について話していきます。心がけることは、人を選ぶのではなく意見を選んでいくこと、笑顔で話しかけ、誰とでも話す気持ちを持つことです。相手を説得させるためには、自分の考えに理由や証拠をしっかりつけて、自分が調べたことを伝えていくことを確かめ合いました。



話し合いがスタートしました。子どもたちは三つの項目のうち、一つを選択して話し始めます。

『Hip-Hop』を選んだ子たちは、ラップやダンスについて話を始めていました。ダンスで元気が出ること、ラップを作るときに協力できることを主張しています。

『福沢諭吉』を選んだ子は、学校を作った人、1万円札になった実績のある人、国際的に知名度の高い文化人であることを伝えていました。

『食品ロス』を伝えている子どもたちは、家庭の一日の食品ロスの量や地球温暖化の可能性について、そして環境負担の軽減について訴えていました。



相手に話すことで、そのことについてどう思うかを問うていきます。自分と違うことをメモすることによって、比べることを大切に、自分の考えが変わっていく可能性のあることも頭に入れながら、よりよいものを見つけていこうとしていました。スケールチャートを使って、現段階での自分の気持ちを整理していきます。やりたい事柄が変わってきた子も出てきました。



いよいよ全体での交流の時間です。『Hip-Hop』の新発見、この学習材で出せる4の3のよさを改めてアピールしています。自分で調べた年表を見せながら、『福沢諭吉』を伝えるよさを考えてきた子の話になぜか姿も見られました。『食品ロス』を調べることで、自分でできることを見つけ、チラシを作って知ってもらおう活動を提案する様子見られました。



決めるにはどうしたらいいのか？この時間内に決められなかったことについて、次のように進めていこうと確認しました。【それぞれの意見についてどう思うかを問うてみること】、【まだ伝えたいことがあればすべてを出し合って決めていくこと】。次の時間に向けて「新しい説得のできる考えを発表したい」「友達の説得力がすごかった」「なぜいいのかの意見が聞けてよかった」とふりかえっていくことができました。